

こやのせだより

学校だより 学力特集号

平成29年12月7日
北九州市立木屋瀬学校

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

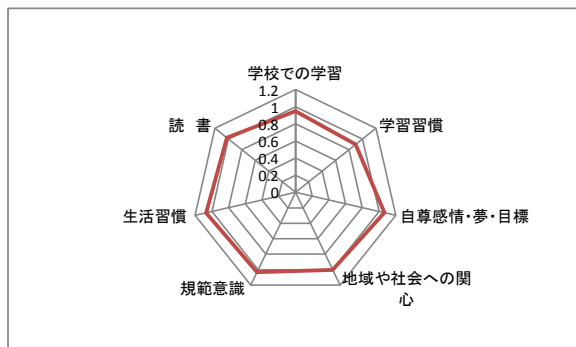
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・昨年度に比べて正答率が上がり、全国平均正答率と同程度であった。 ・言語についての知識・理解・技能における正答率が高かった ・書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	同程度
国語B	・メモとグループで出された意見を基に、話の構成や内容を工夫して自分の考えを書く記述式の問題に課題がある。 ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える選択式の問題がよくできた。 ・物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えを記述で書く問題の無回答率が高かった。	下回っている
算数A	・整数のかけ算や小数と整数のたし算に課題があり、基礎的な計算力をつける必要がある。 ・図形の性質を問う問題や資料を読み取る問題に課題がある。	下回っている
算数B	・式の中の数の意味を正しく理解したり、割合を基に比較する量を判断したりする問題において考えた理由を記述する問題の正答率が低い。 ・数量や図形についての知識・理解の定着を高める必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「学校のきまりを守っている」「家で学校の宿題をしている」「人の役に立つ人になりたい」「将来の夢や目標を持っていますか。」という項目において、ほぼ全ての児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した。規範意識、将来への関心など高い割合で肯定的な回答をしている。
- ・「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」「家庭での学習時間」について、約半数ができていない状態であり、家庭での学習習慣に課題がある。
- ・携帯電話やスマートフォンなどの使用の項目では、「1時間以上」と回答した割合は平均を上回っており、課題がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、調べ、発表するなどの学習活動が不十分である。したがって、「アクティブラーニング」の指導方法を積極的に取り入れ、主体的な課題設定、「ペア学習」「グループ学習」などの話し合い活動を意図的・計画的に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・宿題や自主学習についての「方法・内容」を学校全体で話し合い、学年ごとで取り決め、家庭に向けて発信していく。
- ・携帯電話やスマートフォンなどの使用については、学校・家庭の協力が不可欠であり、機会がある毎に時間を減らしていく啓発の取組が必要である。